

けんぱくものしりシート

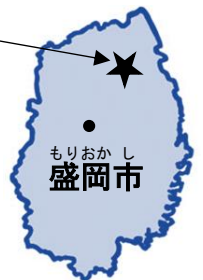
もく
木

たん
炭



かいせついん
解説員

こちらは、昭和の初めころの初冬の北上山地 **久慈市山形町** で木炭を作っている若い夫婦の様子です。ナラなどの森林資源の豊かな岩手では、昔からさかんに炭焼きが行われてきました。昭和20年代後半には、年間約20万トンが生産され「木炭王国」ともよばれました。現在も全国生産量日本一をほこっています。



ハクちゃん

1890(明治23)年以降、東北本線などが開通すると、岩手県の木炭は沿岸部の港や鉄道の駅からも東京などの大都市に出荷されていたそうだよ。



ケンくん

岩手は黒炭の生産が多い！

木炭は、焼く温度の違いによって黒炭と白炭に分けられます。黒炭は400~700度の土のかまで焼かれ、黒くて火が付きやすくやわらかい。白炭は1000度をこえる石のかまで焼かれ、白くてかたく火はつきにくいながも長持ちするという特徴があります。





ところで、木炭ってどういうもの？

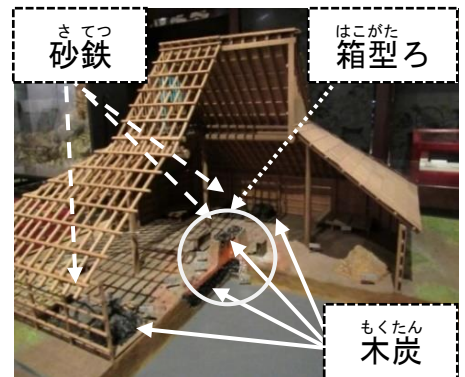


木炭は木を蒸し焼きにしたものです。調理や暖ぼうの燃料には、今はガス・石油・電気が使われていますが、昔は木炭やまきなどでした。特に木炭はけむりが出ず、火が長持ちし、高い温度で燃えるなどの長所があります。まきはかまどで、木炭は火ばちやこたつなどで使われました。木炭は、えんとつが作りづらい木造りの家や、温暖で雨が多く、湿度が高い日本の風土にとっても合っていたようです。いっぽう、気候がかんそうしているヨーロッパでは、えんとつを作りやすい石造りの家に住み、まきを暖ろで燃やす方法がさかんになりました。

さらに、木炭の役割は家庭用の燃料だけではありません。



そういえば江戸時代のたたら製鉄の模型で木炭を見たよ。世界遺産に登録された釜石市の橋野鉄鉱山でも木炭を使っていたよね。なぜなの？



かるまいまちたまがわてつざん 軽米町玉川鉄山のたたら製鉄模型

砂鉄や鉄を含む石(鉄鉱石)と木炭をまぜて燃やすと、鉄だけを取り出すことができます。これを製れんといいます。製れんには、木炭が必要でした。近くの山から木炭を調達できたことが、昔から岩手で鉄づくりがさかんになる理由でもあったのですね。

他にも木炭には湿度の調整や土の性質の改良、におい消しなどの使い方があるようです。



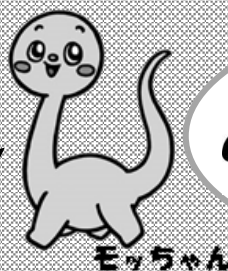
かまいししはしのてつこうざん こうろ もけい 釜石市橋野鉄鉱山の高炉模型



木炭は昔も今も人々の暮らしを支える地球にやさしい大切なものなんだね。

参考 『火と炭の絵本-火おこし編・炭焼き編-』 農山漁村文化協会 2006年/ 『燠燠-岩手県木炭協会 50年のあゆみ』 岩手県木炭協会 2003年/ 岩手県ホームページ いわてお国自慢(木炭) 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モチちゃん



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>